



狭山ライオンズが「関東小学生ソフトボール大会」へ

5月3・4日(祝)に開催された「第27回全日本小学生ソフトボール大会(女子)兼第30回関東小学生大会(女子)埼玉県予選会」で、狭山ライオンズが第3位という優秀な成績を収め、8月に山梨県で開催される「関東小学生大会」へ県代表として出場することになりました。小学6年生6人を中心に14人のチームは、土・日・祝日の午前中に水富小学校で一生懸命練習しています。目標は、初戦突破。現在、新しいメンバーも募集中です。頑張れ、狭山ライオンズ!!



こどもの読書週間スペシャルおはなし会

4月23日(火)の「子ども読書の日」から5月12日(日)までは「こどもの読書週間」でした。中央図書館では、広報紙「よむぞうタイムズ」号外を発行し、そこで紹介した資料の展示を行いました。

また、5月3日(祝)には、市内在住のストーリーテラー・浅見和子さんをゲストに迎えて「こどもの読書週間スペシャルおはなし会」を開催。子ども達は、保護者や兄弟姉妹、友だちと一緒に「すばなし」や絵本、紙芝居などの世界を楽しみました。



狭山警察署と連携した非行防止教室・防犯教室

5月1日(水)から7月31日(水)は、非行防止週間です。この間、市内小・中学校では、小学3年生と中学1年生を対象とした「非行防止教室」や小学1年生に「防犯教室」を実施しています。

小学3年生は「万引きや喫煙はしてはいけないこと」、中学1年生は「喫煙や薬物の乱用の危険性」などを学びました。また、小学1年生は「知らない人にはついていかない」など自分の身を守る基本的な心構えを学びました。

お父さんとの会話を楽しみながら…

5月19日(日) / パパとクッキー作り(中央児童館)

材料を混ぜて、型を抜き、焼いたらきれいにデコレーション。お母さんに日ごろの感謝を込めて、かわいいクッキーのプレゼントができました。



まだまだ若い人には負けません

5月26日・6月2日(日) / 壮年ソフトボール大会(上奥富運動公園)



参加した16チームによる真剣勝負。ふだん顔を合わせている対戦相手だけに、プレー同様、ベンチからの声援にも一段と熱がこもっていました。

狭山の今昔物語 Vol.26

— 薬研坂 —

富士見二丁目から堀兼方面へ向かう通りの途中、御狩場小学校の北側にある坂が薬研坂です。薬研とは、漢方薬を作るときに薬種を粉にひく器具のことで、かつて坂道がV字型に掘られていたところからこの名がついたようです。改良工事前は、幅員5mほどの昼間でも薄暗く寂しい道でした。



道路脇の土手が、V字型に掘ってあった坂道の名残を残しています(昭和42年)



今では、商店や飲食店などが建ち並び、人や車が頻りに往來するにぎやかな通りになっています

新茶の季節 狭山新茶の緑と香りと

5月 / 茶摘み体験(市内各所)

5月12日(日)、狭山市の友好交流都市の新潟県津南町から「茶摘み体験ふれあいツアー」の皆さん22名が、市内の茶園を訪れ、茶摘みを体験しました。初夏を思わせる陽気の中で摘んだ葉は、持ち帰って、天ぷらなどにして家族と楽しみました。



この苦味がいいんだよね

5月15日(水)、山王小学校の全校児童と保護者約50名が参加して、学校の東側茶園で新茶を摘みました。この日の収穫は56kg。市内の茶園で製茶され、23日(木)、全校生徒に配られました。



みんなでたくさん摘むぞ!



見て!こんなに摘めたよ

今まで考えていたことを形に

5月25日(土) / この指とまれinさやま(狭山元気プラザ)

狭山元気大学コミュニティビジネス起業コース修了生4名が、「私の思い・事業プラン」を発表しました。それぞれの思いを込めた8分間のスピーチで、人やモノ、資金などを必要とする発表者と、会場内の応援できる人がつながりました。

起業のきっかけは、何気ない日常生活から



プランの賛同者は、「この指とまれ!」のカードを挙げます

ひとまち写真館

あなたが写っていませんか? 広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

ヒツジさんも衣替えの季節を迎えました

5月5日(祝) / ヒツジの毛刈り(こども動物園)

ヒツジを覆う厚い毛は自然に抜けかわらないため、夏を迎える前に人の手で刈ってあげなければなりません。刈り取った毛を手にした子ども達の感想はさまざま。「ふわふわしてる」「べたべたしてる」「においは微妙」など、その感触を楽しんでいました。



刈った毛の重さは約3kg、セーターにすると3~4着分

掘り出し物がいっぱい

5月18日(土) / リサイクルマーケット・さやま(上奥富運動公園)

汗ばむ陽気の中、4,500人もの人出がありました。物を大切にすることを育むという主旨で、あえて「リサイクル」という呼び方にこだわっています。売り手と買い手が値段交渉を楽しむなど、市民のコミュニケーションの場としてもすっかり定着してきました。



200の店舗には朝から多くの人を訪れました